

何十年先も愛される家具を

ナカヤマ木工

代表 中山 隆博さん

住所：〒831-0041
大川市小保800
TEL：0944-8614227
HP：http://nakayama-life

今回の夢追い人は、ナカヤマ木工の中山隆博さんにお話を伺いました。ナカヤマ木工は1962年創業。先代のお

父様から事業を受け継ぎ、中山さんは2代目になるそうです。伝統的な指物技術での、無垢材の家具製造・販売を行っており、中山さんは令和7年度の大川の匠にも認定されています。

「家具づくりで大切にしているのは、心地よさです。ショールームで見たときのデザイン性や存在感などの華やかな部分だけではなく、その家具がお客様の暮らしの一部になったときに、どれだけ心地よく感じてもらえるかを大事にしています。使い心地や座り心地はどうか、空間の居心地はいいか。そういった、実際に使い始めてから気づく細かな部分まで、できるだけ手間を惜しまずに作り込むようにしています。無垢材の家具は、使い込むほどに味わい

が増していきますし、何十年経っても新鮮な感動を暮らしの中に届けられるものだと思います。実際に、今ショールームに並んでいる家具も、ほとんどが長年使い続けているものばかりです。長い年月を経ても使い続けられることや、時間とともに深まる風合いを見ていただきたいと思っています。元々は婚礼堂タンスの製作が中心でしたが、時代とともに少しずつ家具全般へと広がっていきました。カントリースタイルやアンティーク調の家具なども製作していますが、基本的な作り方そのものは昔から大きく変わっていません。変わっているのは主にデザインの部分で、自分の中で思い浮かんだものを、そのまま形にしています。」





現在の家具づくりへのこだわりはどのような経験から生まれたのでしょうか。

「工場兼自宅という環境で育ったこともあり、幼い頃から木の存在はとても身近なものでした。ただ、当時は家業を継ぐつもりはなく、家具業界とはまったく違う業種に就職しました。会社員時代には経理や営業の仕事を経験し、社会人としての基礎や営業のノウハウを学んできました。もともと美術や図工が好きで、学生時代には賞状をいただく機会も多くありましたね。社会人になってからは、個展や美術系の展覧会に足を運ぶことも増え、自分で作品を制作し販売している方々の姿を見ながら、「こういう働き方も素敵だな」と感じるようになりまし。そうした経験を重ねるうちに、少しずつ家業を継ぎたいという気持ち芽生えていったんです。家業を継ぐと決めてからは、できるだけ営業力を身につけてから戻ろうと思いい、会社員としての仕事にもより一層力を注ぎました。そして家業に戻ってからは、とにかく毎日がむしゃらに働いていたと思います。以前は展示会へ出店し、卸売販売を中心に活動していましたが、大病を患い入

院したことをきっかけに、少しずつ仕事のスタイルを見直すようになってきました。」

仕事のスタイルを見直される中で、どのような変化があったのでしょうか。

「現在のお客様は、ほとんどが個人のお客様です。企業とのお取引も一部ありますが、中心となっているのはBtoCで、長くご愛用いただいているリピーターの方も多くいらっしゃると思います。大病を患った当時は、正直なところ思うように活動ができず、今の自分でできることをやろうと考えるようになりました。その中で、もつと営業に力を入れていこうと思っ。以前は展示会を通じた卸売販売が中心でしたが、その頃から少しずつ、直接個人のお客様へ届ける形へとシフトしていきまし。大々的に展示していただくスタイルではなく、自分自身でお客様と向き合いながら販売する現在の形に変わっていった感じですね。今でも時々、人が集まる展示会には出展することはありますが、活動の中心はあくまで個人のお客様とのつながりになってい。常にお客様と向き合い、こ

だわりを持って製作されている中山さんですが、お仕事をを行う上で心掛けていることは何でしょうか。

「二番は丁寧さですね。今は世間の目もより一層厳しくなっていますし、だからこそ、一つ一つの家具づくりにしっかり向き合わないといけないと思っ。特に無垢材は、素材そのものの表情が全面に出るので、とても味が出やすいんです。木には節があつたり、色味や木目に違いがあつたりしますが、そういう素材の個性も含めて受け入れていただけたら嬉しいですね。無垢材の魅力を感じてくださる方が増えていくのが、一番理想だと思っ。こだわりの持った方は大歓迎です。無垢材って、見ているだけで落ち着くというか、吸い込まれていくような魅力があるんですよ。使っていくうちに、だんだん愛着もわいてくると思っ。もちろん、購入していただいた後のアフターフォローもしっかり行っ。例えばクッションは、どうしても使っ。ちにくたっ。で、交換対応をしていますし、無垢材の家具は表面を削り直せば、ほとんど新品のようによみがえります。そうやって

手直ししながら長く使っけるのも、無垢材ならではの魅力だと思っ。親から子、孫へと受け継がれていくような家具作りを心掛けてい。世代を超えて長く愛される家具づくりを行っている中山さん。そんな中山さんの夢を教えてください。

「大川にもつと貢献していくことです。もつと大川市の方にも、大川ってこんなところなんだ」と知っ。たいです。実際に足を運んで見に来てもらえたいようにしたいと思っ。家具も、写真や言葉だけじゃなくて、実物を見て、触れて、作り手と直接話してもらっ。で、伝わる良さがあると思っ。色々なお店や展示場を回っ。気に入っ。ただけなら嬉しいですね。木工まつりには毎年たくさんの方が来場されますが、それでもまだまだ、大川市が家具の産地」ということを知らない人は多いように感じています。だからこそ、その認知をもつと広げていきたいです。大川家具の良さを、これからもつと多くの人に伝えていけるようにしていきたいと思っ。ます。」